

JA海外債券ファンド

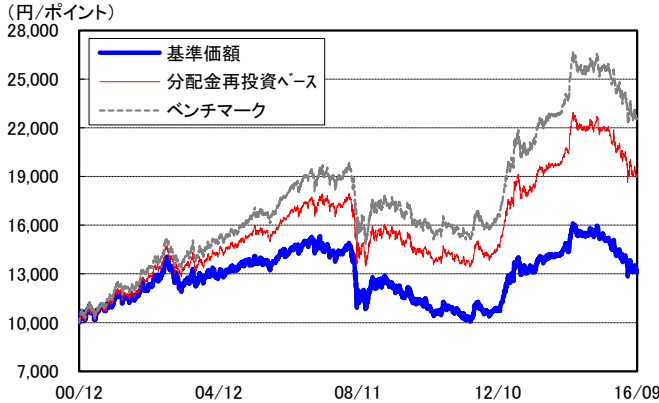
設定日:2000年12月22日 償還日:無期限 決算日:10月16日(休業日の場合は翌営業日)

追加型投信/海外/債券

●商品の特徴

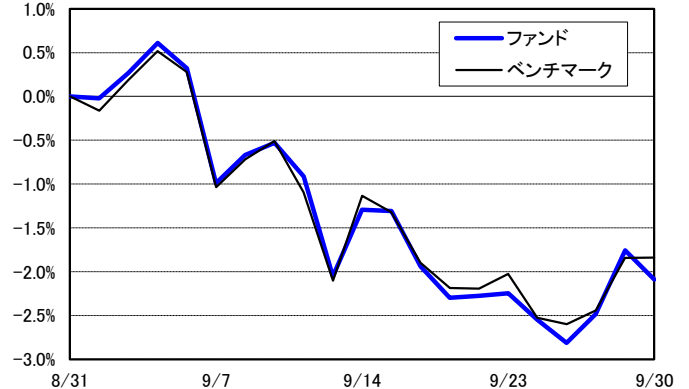
- 当ファンドは、JA海外債券マザーファンドを主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を除く世界各国の公社債を中心に投資を行います。
- マザーファンドの運用にあたっては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーに外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限を委託します。
- 当社が円ベースに換算したシティ世界国債インデックス(除く日本)をベンチマークとし、ファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により運用を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。
- ポートフォリオ全体の平均格付(保有している有価証券に係る信用格付けを加重平均したものは、原則としてA格以上を維持することとします。外貨建資産については、原則として対円為替ヘッジは行いません。

●基準価額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したもとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当月のパフォーマンス推移



●設定来の運用実績

	ファンド騰落率 (分配金再投資) (1) (%)	ベンチマーク 騰落率 (2) (%)	差異 (1)-(2) (%)
過去1ヵ月	-2.09	-1.84	-0.25
過去3ヵ月	-1.42	-0.87	-0.55
過去6ヵ月	-9.31	-8.69	-0.62
過去1年	-12.84	-11.40	-1.44
過去3年	5.24	8.86	-3.62
設定日	90.84	126.56	-35.72

※1 ファンド騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 ファンド騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●基準価額と純資産総額

年月日	基準価額 (円)	シティ世界国債インデックス (除く日本、当社円換算ベース) (ポイント)	純資産総額 (百万円)	マザーファンド 純資産総額 (百万円)
2016/09/30	13,166	103,925.95	279	17,790
2000/12/22 (設定日)	10,000	45,870.69	1	11,048

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定日の基準価額は設定当初の投資元本です。

●直近6期の分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2015/10/16	270
2014/10/16	310
2013/10/16	300
2012/10/16	240
2011/10/17	220
2010/10/18	250
設定来合計	4,769

※ 1万口当たりの実績です。

●信託財産の構成

ファンド	比率(%)
マザーファンド受益証券	100.6
短期資産等	-0.6
合計	100.0
うち実質外貨建比率	100.0

※1 比率は純資産総額対比です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

マザーファンド	比率(%)
外国債券	98.0
短期資産等	2.0
合計	100.0

※1 比率は純資産総額対比です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

JA海外債券ファンド

追加型投信/海外/債券

<マザーファンドの運用状況>

●国別組入比率とデュレーション

国名	① 組入比率 (%)		② 修正デュレーション(年)		加重デュレーション(①×②)		
	ファンド	ベンチマーク	ファンド	ベンチマーク	ファンド	ベンチマーク	差
米国	38.8	42.7	6.32	6.22	2.46	2.66	-0.20
カナダ	2.8	2.0	6.33	7.36	0.18	0.15	0.03
イギリス	7.4	7.5	12.30	12.43	0.90	0.93	-0.03
ユーロ	40.8	41.2	7.56	7.69	3.09	3.17	-0.08
ドイツ	6.6	7.6	8.82	7.72	0.58	0.58	-0.01
フランス	10.1	10.3	7.92	8.04	0.80	0.83	-0.03
アイルランド	1.0	0.8	5.17	6.16	0.05	0.05	-0.00
イタリア	10.3	9.7	6.52	7.13	0.67	0.69	-0.02
オーストリア	1.4	1.5	8.34	8.13	0.12	0.12	-0.01
オランダ	2.4	2.4	7.91	8.17	0.19	0.19	-0.01
スペイン	5.5	5.7	7.14	7.11	0.39	0.40	-0.01
フィンランド	0.9	0.6	5.09	7.41	0.04	0.04	0.00
ベルギー	2.7	2.6	8.92	9.45	0.24	0.24	-0.01
その他	-	-	-	-	-	-	-
スイス	0.2	0.2	5.43	4.84	0.01	0.01	-0.00
スウェーデン	0.5	0.5	5.73	6.70	0.03	0.03	-0.00
ポーランド	0.5	0.6	4.35	4.34	0.02	0.03	-0.00
デンマーク	0.8	0.7	7.11	8.57	0.06	0.06	-0.01
ノルウェー	0.5	0.3	2.69	5.39	0.01	0.01	-0.00
オーストラリア	2.1	2.0	5.72	6.27	0.12	0.13	-0.00
シンガポール	1.6	0.4	3.27	6.59	0.05	0.03	0.03
マレーシア	-	0.5	-	5.72	-	0.03	-
メキシコ	0.9	0.9	5.37	5.64	0.05	0.05	-0.00
南アフリカ	0.5	0.5	7.24	7.44	0.03	0.04	-0.00
ニュージーランド	0.6	-	3.31	4.76	0.02	-	0.02
債券合計	98.0	100.0	7.16	7.32	-	-	-
その他	2.0	-	-	-	-	-	-
合計	100.0	100.0	-	-	7.01	7.32	-0.31

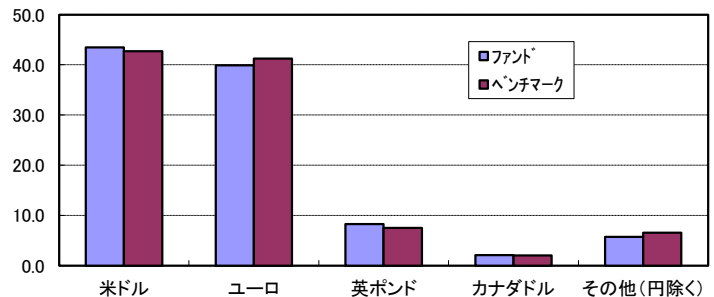
※1 比率は純資産総額対比です。

※2 加重デュレーションは、国別に修正デュレーション×組入比率で算出したものであり、金利エクスポージャーの大きさを表す数値です。

●通貨別組入比率

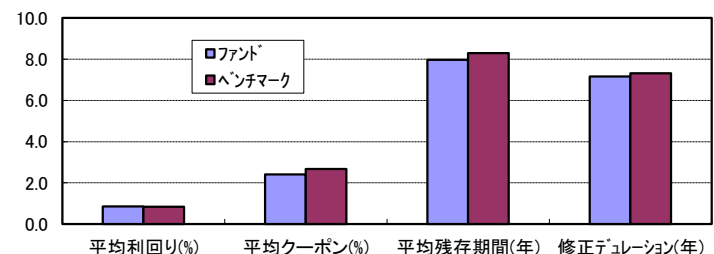
通貨	ファンド (%)	ベンチマーク (%)	差 (%)
米ドル	43.5	42.7	0.7
ユーロ	39.9	41.2	-1.3
英ポンド	8.2	7.5	0.7
カナダドル	2.1	2.0	0.0
その他(円除く)	5.7	6.5	-0.8
合計	99.4	100.0	-0.6

※ 比率は純資産総額対比です。



●保有債券の属性

	ファンド	ベンチマーク	差
平均利回り(%)	0.85	0.85	0.00
平均クーポン(%)	2.42	2.67	-0.25
平均残存期間(年)	7.97	8.30	-0.33
修正デュレーション(年)	7.16	7.32	-0.16



JA海外債券ファンド

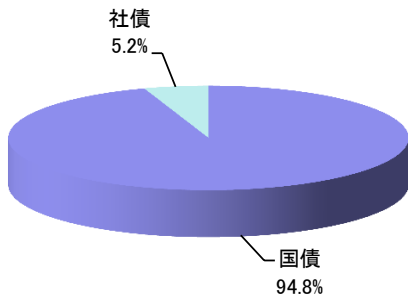
追加型投信／海外／債券

<マザーファンドの運用状況>

●セクター別組入比率

セクター	ファンド(%)
国債	94.8
地方債	-
特殊債	-
社債	5.2
その他有価証券	-
合計	100.0

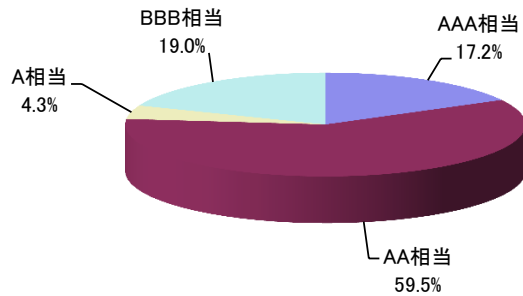
※1 比率は外国債券現物対比です。
 ※2 特殊債にはGNMA、FHLMC、FNMAが含まれ、その他有価証券には外国貸付債権信託受益証券が含まれます。



●格付別組入比率

格付	ファンド(%)
AAA相当	17.2
AA相当	59.5
A相当	4.3
BBB相当	19.0
BB相当以下	-
合計	100.0

※1 比率は外国債券現物対比です。
 ※2 格付けは、原則としてS&P社、Moody's社のうち低位のものを採用しています。



●組入上位15銘柄

順位	銘柄名	国名	通貨	クーポン (%)	償還日	組入比率 (%)	分類
1	T-NOTE 1.375 200430	アメリカ	USDドル	1.375	2020/4/30	7.7	国債
2	T-NOTE 2.125 210815	アメリカ	USDドル	2.125	2021/8/15	4.3	国債
3	T-NOTE 1.5 180831	アメリカ	USDドル	1.500	2018/8/31	3.4	国債
4	T-NOTE 3.125 210515	アメリカ	USDドル	3.125	2021/5/15	2.9	国債
5	OBL 0 200417	ドイツ	ユーロ	0.000	2020/4/17	2.3	国債
6	BTPS 2.5 190501	イタリア	ユーロ	2.500	2019/5/1	2.1	国債
7	T-NOTE 0.75 171231	アメリカ	USDドル	0.750	2017/12/31	2.0	国債
8	OAT 2.25 240525	フランス	ユーロ	2.250	2024/5/25	1.7	国債
9	T-BOND 3.625 440215	アメリカ	USDドル	3.625	2044/2/15	1.6	国債
10	BUND 1.0 250815	ドイツ	ユーロ	1.000	2025/8/15	1.6	国債
11	T-BOND 4.5 360215	アメリカ	USDドル	4.500	2036/2/15	1.6	国債
12	T-NOTE 2.0 250815	アメリカ	USDドル	2.000	2025/8/15	1.6	国債
13	T-NOTE 1.625 260515	アメリカ	USDドル	1.625	2026/5/15	1.6	国債
14	T-BOND 3.0 450515	アメリカ	USDドル	3.000	2045/5/15	1.5	国債
15	T-NOTE 2.25 251115	アメリカ	USDドル	2.250	2025/11/15	1.5	国債

※ 比率は外国債券現物対比です。

組入銘柄数: 160銘柄

JA海外債券ファンド

追加型投信／海外／債券

<運用担当者のコメント>

●9月の市場動向と運用状況

(市場動向)

当月、世界の国債利回りはまちまちの動きとなりました。月前半は、ドラギ欧州中央銀行(ECB)総裁のハト派色の弱い発言や米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げに対する市場の思惑から金利は世界的に上昇しました。しかし、月後半は、FRBが政策金利を据え置き、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和の導入を決定したことから、金利は低下しました。英国では、欧州連合(EU)離脱に対する懸念の後退に加え、予想を上回る経済指標が発表されたことから、長期債利回りが上昇しました。為替市場では、米ドルは特にFRBの金利据え置き決定後に、ほとんどの通貨に対して下落しました。豪ドルやノルウェー・クローネなど商品市況と関連性のある通貨が大きく上昇しました。

■米国では、消費者信頼感指数が労働市場への楽観的な見方を背景に金融危機以前の水準に回復しました。住宅統計も堅調な水準を維持しましたが、非農業部門雇用者数は予想を下回り、失業率は前月から横ばいとなりました。米国経済の拡大は緩慢で、ISM景況指数については、製造業は拡大と縮小の分岐点となる50を下回り、非製造業は6年ぶりの低水準となりました。

■欧州では、インフレ率が低くECBの目標である2%近辺を大きく下回っていますが、小売売上高は年初来で最大の伸びを示しました。ドイツでは、外需の回復を背景に製造業受注が回復し、企業景況感は英国のEU離脱に対する懸念の後退で改善しました。英国の経済指標は概ね好調な結果となりました。

■中国では、製造業PMI総合指数が50を上回り、小売売上高や鉱工業生産が予想を上回り増加しました。

■FRBは政策金利を据え置きました。ECBも金利を据え置き、月間800億ユーロの資産購入プログラムの維持を決定しました。一方、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を導入することを決定しました。その他中銀は概ね政策金利を据え置きました。

(ファンド・レビュー)

9月のファンドのパフォーマンスは前月比-2.09%、ベンチマークのパフォーマンスは前月比-1.84%、ファンドのベンチマークに対する相対パフォーマンスは-0.25%となりました。当ファンドが組入れているマザーファンドの9月のパフォーマンス(ドルベース)をベンチマークと基準を揃えて比較すると、ファンドのパフォーマンスは以下の要因から、ベンチマークを下回りました。

■(一)デフレ戦略はマイナスに寄与しました。FRBが利上げに踏み切る可能性は高まっているものの、長期的な利上げペースは下方修正される可能性が高いとの見方やイングランド銀行(BOE)が今後数年にかけてさらなる金融緩和政策を講じるとの見方に基づいて米国および英国の中長期債をオーバーウェイトとしたことは、米国の利上げ観測や一部の中央銀行の流動性供給の縮小懸念が高まり、長期国債利回りが上昇したためマイナスに寄与しました。

■(〇)国別配分戦略の寄与は中立となりました。

■(〇)イールドカーブ戦略の寄与は中立となりました。

■(一)通貨戦略はマイナスに寄与しました。ECBは量的緩和にかかるルールを緩めて資産購入対象を拡大することによって、欧州で逼迫している金融状況に対応する可能性があるとの考えに基づきユーロをアンダーウェイトとしたことは、ECBが金融政策の現状維持を決定しユーロが上昇したため、マイナスに寄与しました。また、北米と欧州・アジアとの間で経済成長の格差が拡大するとの見方に基づき、メキシコ・ペソをオーバーウェイトとしたことは、米国大統領選挙の不透明感を受けてメキシコ・ペソが下落したためマイナスに寄与しました。

■(一)信用戦略はマイナスに寄与しました。金融緩和政策と良好な需給動向が引き続き社債の下支えとなるとの見方に基づき投資適格社債、特に金融セクターを組み入れたことは、社債スプレッドが拡大し、金融セクターが公益セクターや資本財セクターをアンダーパフォーマンスしたためマイナスに寄与しました。

●基準価額の変動要因分析

	(単位:円)	(単位:%)
	基準価額	月次騰落率
2016年9月30日	13,166	-
2016年8月31日	13,447	-
増減	-281	-2.09
債券要因	-24	-0.18
キャピタル	-48	-0.35
うち現物	(-48)	(-0.35)
うち先物	(-)	(-)
インカム	23	0.17
為替要因	-243	-1.81
小計	-267	-1.99
その他要因	-14	-0.10
要因合計	-281	-2.09

※ 上記の要因分析は、主要項目別に寄与度を概算した参考値です。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日は一日異なります。また、上記コメントは、将来の市場環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

JA海外債券ファンド

追加型投信／海外／債券

＜運用担当者のコメント＞

●今後の市場見通しと運用方針

■米国の労働市場は完全雇用に近いと予想しています。中国経済も比較的安定しており、英国では先行指標の多くがインフレ率の上昇を示唆しています。こうした状況を踏まえ、長期的な視点からは、世界経済は緩やかに回復の兆しを見せ始めていると考えられます。このように経済の基礎的要因が良好である一方、米国大統領選挙は引き続き大きな不透明要因となっており、欧州におけるリスク要因としては、脆弱な景気サイクル、低インフレ率、反EUに対する機運の高まりなどが挙げられます。各国の政治動向については、今後主要なテーマになると思われます。各国の中央銀行は金融政策の限界を意識しつつあり、市場の金融緩和期待には十分に応えられない可能性が高いと考えられます。また、FRBが12月に利上げに踏み切る可能性も高まっています。こうした状況の中、ポートフォリオ全体のリスクを注視しつつ、デュレーションをアンダーウェイトとすることを検討します。通貨別では、米ドルやスウェーデン・クローナをオーバーウェイト、ユーロやニュージーランド・ドルをアンダーウェイトとすることを検討します。

■債券:

【北米】米国経済に影響を及ぼす要因としては、米国大統領選挙による先行き不透明感が挙げられます。米国の雇用状況や物価の基調を勘案し、GDPは1.5%程度の緩やかな成長となり、失業率は4.5%～5.0%、コアインフレ率は2.0%～2.5%の水準で推移し、年内の利上げは12月に1回、来年は1～2回のペースで実施されるのではないかと予想しています。こうした環境の中、米国のデュレーションをアンダーウェイトとすることを検討します。

【中国】不動産市場とインフラ投資が牽引する現在の景気の上昇サイクルは数ヶ月継続するとみています。景気状況に比して現在の金利水準は低すぎるとみており、中国人民銀行が利上げを再開する可能性も考えられます。不動産バブルを受けて、経済や市場が政策変更非常に敏感であることが短期的な下方リスクになると思われます。

【オーストラリア】オーストラリア準備銀行(RBA)による緩和的な金融政策が長期化するとみられることから、オーストラリアのデュレーションをオーバーウェイトとすることを検討します。

【ユーロ圏】良好な経済指標が続いており、ユーロ圏は底堅く推移しているものと思われます。9月のユーロ圏景況感指数は好調なドイツに支えられて大幅に改善しました。ECBが量的金融緩和の延長やマイナス金利の深掘りに対して慎重姿勢を示していることを考慮すると、良好な経済指標が続く場合、長期的には量的金融緩和の段階的な縮小に向けた議論を行うであろうと思われます。しかし、インフレ見通しが依然として低く、経済成長の下方リスクを抱える現状を考慮すると、量的金融緩和の段階的な縮小観測は時期尚早であるとみています。このような環境の中、ユーロ圏のデュレーションをオーバーウェイトとすることを検討します。

【英国】製造業PMIは予想を大幅に上回り、経済指標を見る限りにおいては、英国はEU離脱に対する影響から持ち直しつつあります。最近のインフレ率上昇はサービス業が主因となっており、ポンド安により引き起こされた一時的現象と一概に言うことは困難になってきています。英国の交渉スタンスは、EUからの離脱を強硬に進めるいわゆる「ハードブレグジット」に傾いていますが、ポンド安が更に進行すれば英国経済の安定化に貢献するというより、むしろ信頼が損なわれるだろうとみえています。このような環境の中、英国のデュレーションをアンダーウェイトとすることを検討します。

■通貨:

【米ドル】FRBの利上げは年内に1回、来年は2回のペースになると予測しており、インフレ率の上昇傾向が過熱化すれば利上げペースの上振れも考えられます。米ドルの見通しについてはやや強気であることから、米ドルをオーバーウェイトとする方針です。

【ユーロ】脆弱な景気サイクル、低インフレ率、反EU機運の高まりを受けて、ユーロに対する見通しは弱気です。このためユーロをアンダーウェイトとする方針です。

【英ポンド】英国の交渉スタンスがEUからの離脱を強硬に進めるいわゆる「ハードブレグジット」に傾いているため、英ポンドの見通しは弱気です。直接投資や資本流入が減少する中、経常収支の赤字は続き、英ポンドの押し下げ要因になるだろうとみえていることから、英ポンドをアンダーウェイトとする方針です。

【スウェーデン・クローナ】インフレ率及び賃金に安定化の兆しが見られるため、スウェーデンの中央銀行がECBに連動した金融緩和と政策を講じる可能性は低いと見ていることから、スウェーデン・クローナをオーバーウェイトとする方針です。

【豪ドル】中国経済の安定や利回り追求の動きが一部の高金利通貨を支えられことから、豪ドルをオーバーウェイトとする方針です。

【ニュージーランド・ドル】ニュージーランド国内のインフレ率が低位で推移していることや、ニュージーランド準備銀行(RBNZ)が緩和的な姿勢を継続するとの見方から、ニュージーランド・ドルをアンダーウェイトとする方針です。

■信用セクター:

米国や欧州の政治リスクが引き続き変動要因になると認識していますが、クレジット市場に対して明るい見通しを維持しています。中央銀行は金融緩和と政策の維持を継続し、政治リスク等によって生じた市場変動が長引く場合には流動性を追加供給する可能性が高まります。欧州では構造的な弱さが依然懸念材料となっており、もはや信用リスクに見合うリターンが得られないと考えています。一方、米国は雇用の安定や住宅価格の上昇などを受けて他の市場に比べ魅力が高いとみえています。11月に行われる米国大統領選挙が市場の不透明感を高めており、欧州の主要国で来年予定されている選挙も投資家の不安に影を落としています。このような環境の中、米国の投資適格社債を選好し、特に金融セクターとエネルギーセクターを中心とする方針です。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報元、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。



JA海外債券ファンド

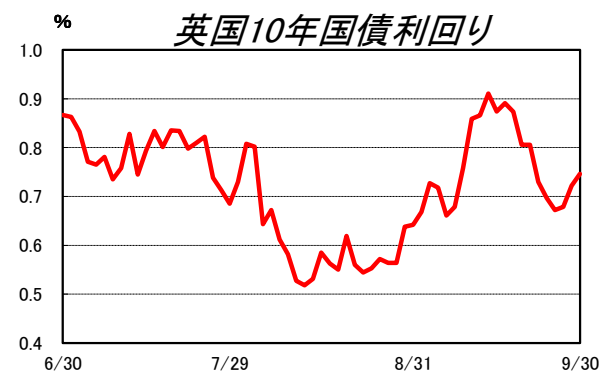
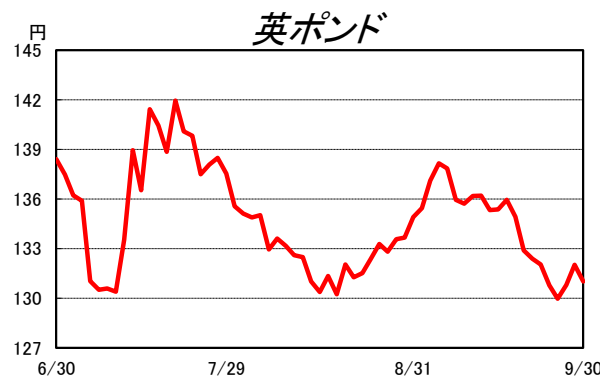
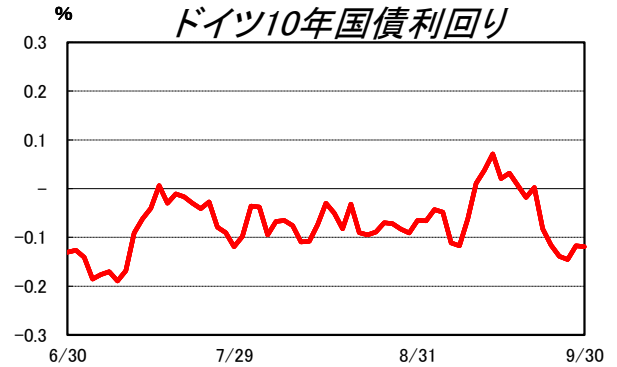
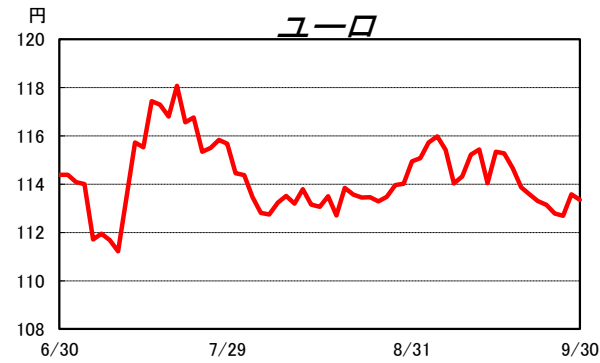
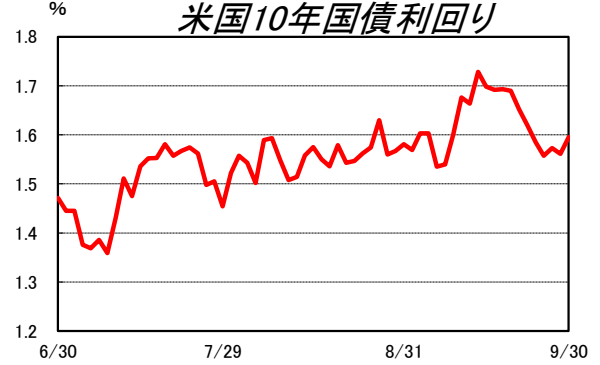
追加型投信／海外／債券

<参考>市場動向(マーケット指標の推移)

○為替相場



○債券市場



当ファンドは、公社債などの値動きを生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。従って元金が保証されるものではありません。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくことになります。当資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。投資信託は貯金(預金)保険制度の対象ではありません。当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。



JA海外債券ファンド

追加型投信／海外／債券

○お申込みメモ

- 購入 いつでもご購入いただけます。
ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日にはご購入の申込みの受け付けを行いません。
- 購入単位 販売会社が定める単位
- 購入価額 購入申込日の翌営業日の基準価額
- 購入時手数料 購入申込日の翌営業日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

- 信託設定日 2000年12月22日
- 信託期間 無期限
- 信託報酬 純資産総額に対して年1.296%(税抜1.20%)
- 決算日 毎年10月16日(休業日の場合は翌営業日)
- 収益分配 原則として実質的な利子・配当収益に相当する収益を中心に、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
分配金再投資(累積投資)専用ファンドですので、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。

- 換金 いつでも解約請求によってご換金いただけます。
ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日にはご換金の申込みの受け付けを行いません。
- 換金単位 1口単位
- 換金価額 換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 信託財産留保額 換金申込日の翌営業日の基準価額に0.20%を乗じた額
- 換金代金の支払い 換金代金は原則として換金申込日から起算して5営業日目から支払いを行います。

- 税金
 - <個人のお客様の場合>
 - ・収益分配時の普通分配金については、配当所得として取り扱われ、課税されます。
 - ・換金時ならびに償還により交付を受ける金銭等は、譲渡所得とみなし、譲渡益に対し課税されます。
 - <法人のお客様の場合>
 - ・収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額に対し課税されます。

※ 税制が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。詳しくは、販売会社、税務署などへお問い合わせください。

ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入、換金のお申込みの受け付けを行いません。金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、購入、換金のお申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた購入、換金のお申込みを取り消す場合があります。

○委託会社、その他の関係法人

- ◆委託会社:農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号
一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
:ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(投資顧問会社)
当ファンドの直接の関係法人ではありませんが、委託会社よりJA海外債券マザーファンドにおける外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限の委託を受けて投資判断・発注等を行います。
- ◆受託会社:三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- ◆販売会社:以下をご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の先までお問い合わせください。
◆農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
ホームページ: <http://www.ja-asset.co.jp>
フリーダイヤル:0120-439-244(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は



JA海外債券ファンド

追加型投信／海外／債券

○主なリスクと手数料

下記の事項は、この投資信託(以下「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

＜当ファンドに係るリスクについて＞

当ファンドは、主に日本を除く世界各国の公社債を実質的な投資対象としますので、海外金利の上昇による組入公社債の価格の下落や、組入公社債の発行会社等の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資を行いますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「金利変動リスク」「為替変動リスク」「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

＜当ファンドに係る手数料等について＞

◆申込手数料(1口当たり)・・・申込時にご負担いただくものです。

お申込日の翌営業日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。

※詳しくは販売会社もしくは申込手数料を記載した書面にてご確認ください。

◆換金(解約)手数料・・・換金時にご負担いただくものです。

ありません。

◆信託報酬・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に年1.296%(税抜年1.20%)の率を乗じて得た額とします。

◆信託財産留保額(1口当たり)・・・換金時にご負担いただくものです。

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.20%の率を乗じて得た額とします。

◆監査費用・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に年0.00324%(税抜年0.003%)の率を乗じて得た額とします。

◆その他の費用(*)

有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引、オプション取引等に要する費用、外国における資産の保管時に要する費用、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税、受託者の立て替えた立替金の利息、資金借り入れを行った場合の借入金利

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「費用と税金」をご覧ください。

(*)「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

当該手数料等の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

○留意事項

■当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

■当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。

■当ファンドは、公社債などの値動きの生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。

■投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

■ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

■シティ世界国債インデックス(除く日本・当社円換算ベース)は、Citigroup Index LLCが開発した、シティ世界国債インデックス(米ドルベース)をもとに、シティグループ証券株式会社の許諾を得て、当社が独自に円換算したものです。